

## (11) 村田川 ～貴重な生き物を育む水辺～

### 基本方針

- ・ 生き物に出会える水辺
- ・ 郷土の生き物（ホタル等）の保護・育成

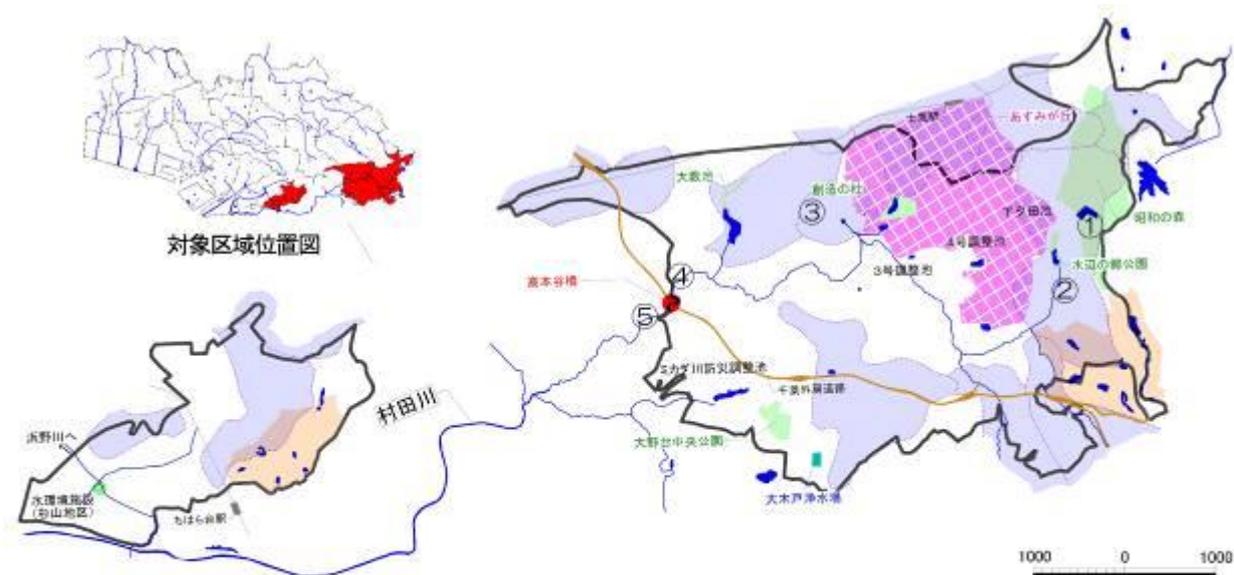
### ●水域の概要と水環境の現状

#### 1) 水域の概要

区名	町丁名
緑区	あすみが丘2丁目*、あすみが丘4～9丁目*、あすみが丘東1～5丁目、板倉町、大金沢町*、大木戸町、大椎街、大高町*、大野台1～2丁目、越智町、落井町、小山町、おゆみ野中央4丁目*、おゆみ野中央7～9丁目*、おゆみ野南4～6丁目*、刈田子町*、小金沢町、富岡町、中西町、平川町*、古市場町*、誉田町2丁目*、茂呂町、小食土町

(備考)町丁名の後ろの\*は、2つ以上の水域にまたがっている町丁を示します。

- ・ 村田川は板倉町を起点として、越智町を流下後、市原市に入り、2本の支流と合流して市原市との境を流れ、東京湾に注いでいる全長約17.5kmの河川です。
- ・ 村田川上流域には農地、樹林地が多く残されており、水田の農業用水として使用されています。上流の右岸には大規模な住宅地があり、左岸は千葉土気緑の森工業団地として整備されています。
- ・ 平成28年3月末現在、水域内の人口は約37,700人、世帯数は約16,200世帯です。(推計値)



①昭和の森 下夕田池

#### 凡例

- 公園・緑地
- 谷津田集水域
- 主要住宅団地
- ゴルフ場
- 評価地点
- 浄水場、処理場



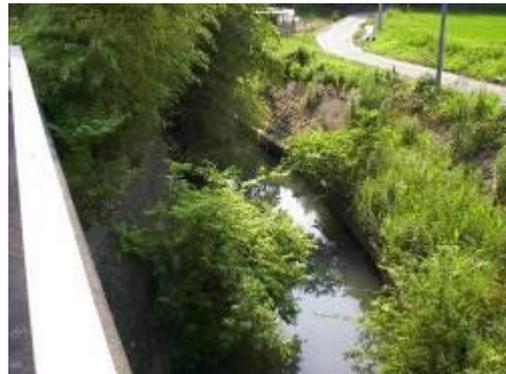
②水辺の郷公園



③創造の杜



④高本谷橋より上流を臨む



⑤高本谷橋より下流を臨む

## 2) 水環境の現状

### ■水生生物の生息・生育状況

#### 【魚類】

平成15年度は8種、平成19年度は6種、平成25年度は5種が確認されました。このうち重要種<sup>※</sup>は、スナヤツメ、オイカワ、ドジョウ、ミナミメダカ、クロダハゼの5種が確認されました。本地点では、特定外来生物（外来生物法）であるオオクチバスが確認されました。また、平成25年度ではミナミメダカが確認できませんでしたが、平成15年度から平成25年度までの全調査で重要種であるスナヤツメとドジョウ、クロダハゼが確認されており、魚類の生息環境には、大きな変化はないと言えます。

#### 【底生生物】

平成15年度は27種、平成19年度は50種、平成25年度は33種が確認されました。このうち重要種は、マシジミ、テナガエビ、サトキハダカゲロウ、イシワタマダラカゲロウ、ヤマサナエ、コオイムシの7種が確認されました。平成19年度の調査に比べて平成25年度の調査では、確認種数が減少していますが、これはユスリカ科が確認されなかったためです。ユスリカ科以外は、ほぼ同様となっており、底生生物の生息環境には、大きな変化はないものと言えます。

-----  
※重要種：環境省や千葉県、千葉市のレッドリストに記載された、千葉市の生物保護上重要な野生生物のことをいいます。

◇底生生物による生物学的水質判定

底生生物による生物学的水質判定を行うと、春季では平成15年度と平成19年度ともに、「とてもよごれている」～「きれい」となっています。秋季では平成15年度は「わりあいきれい」でしたが、平成19年度は「わりあいきれい」～「きれい」となりました。平成25年度には、春季、秋季ともに「わりあいきれい」となっており、汚濁に弱い種も生息できるような生息環境へと改善の方向にあると言えます。

河川 (地点)	年度	調査時期	きれい	わりあい きれい	よごれている	とても よごれている	
村田川 (高本谷橋)	H15	春季	←————→				→
		秋季		←————→			
	H19	春季	←————→				→
		秋季	←————→				
	H25	春季	←————→				
		秋季		←————→			

生物学的水質判定結果模式図（高本谷橋）

なお、一般的にきれいな水域には「カワゲラ類」、わりあいきれいな水域には「コカゲロウ類」、よごれている水域には「ミズムシ」、とてもよごれている水域には「イトミミズ」などの生物が当てはまります。

【植 物】

平成21年度に182種、平成25年度に226種が確認され、重要種ではヤナギモが確認されました。

村田川の高本谷橋で確認された水生生物

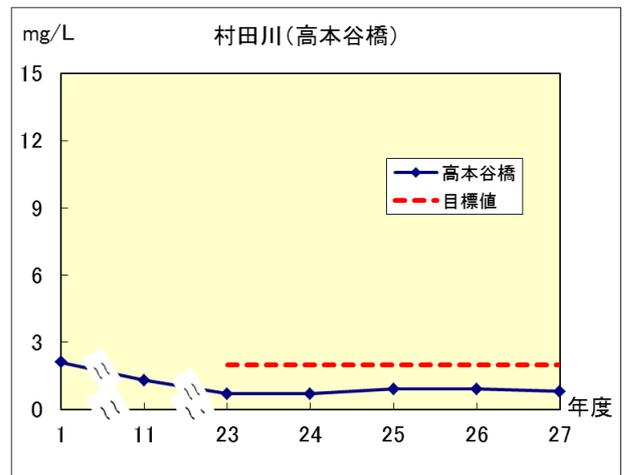
生物	守りたい・保全したい生き物	H15現況	H19現況	H25現況
魚類	スナヤツメ、クロダハゼ、ドジョウ、オイカワ、モツゴ、ヒガシマドジョウ、ミナミメダカ、ホトケドジョウ、キンブナ、ニホンウナギ、ウグイ、ナマズ、タモロコ	<b>スナヤツメ</b> <b>オイカワ</b> <b>タモロコ</b> <b>ドジョウ</b> <b>ミナミメダカ</b> <b>クロダハゼ</b> オオクチバス タイリクバラタナゴ	<b>スナヤツメ</b> <b>オイカワ</b> <b>タモロコ</b> <b>ドジョウ</b> <b>ミナミメダカ</b> <b>クロダハゼ</b>	<b>スナヤツメ</b> コイ <b>ドジョウ</b> オオクチバス <b>クロダハゼ</b>
底生生物	サトキハダヒラタカゲロウ、ヤマサナエ、コヤマトンボ、イシワタマダラカゲロウ、テナガエビ、ハグロトンボ、コオイムシ、マシジミ	<b>マシジミ</b> <b>テナガエビ</b> <b>サトキハダヒラタカゲロウ</b> <b>コオイムシ</b> ニホンカワトンボ など全27種	<b>マシジミ</b> <b>テナガエビ</b> シロハラコカゲロウ ナミウズムシ ニホンカワトンボ など全50種	<b>サトキハダヒラタカゲロウ</b> ナミウズムシ ニホンカワトンボ <b>コヤマトンボ</b> コガタシマトビケラ属の一種 など全33種
植物	オニグルミ、ヤナギモ、エビモ、オギ	H21現況		H25現況
		<b>ヤナギモ</b> など全182種		<b>オニグルミ</b> ヤナギイノコズチ など全226種

太字は指標生物を示します。

■水質・流量等の状況

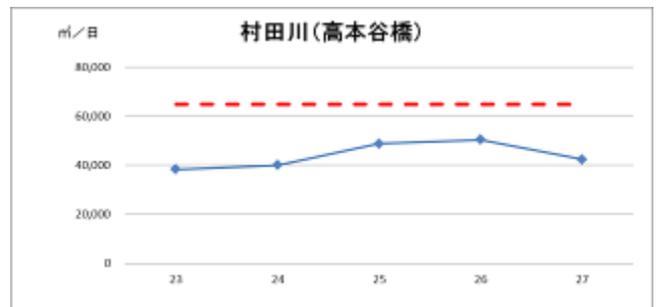
【河川の水質】

高本谷橋における BOD 年平均値は、年々低下する傾向を示しています。近年では計画目標値の 2mg/L 以下を達成しています。



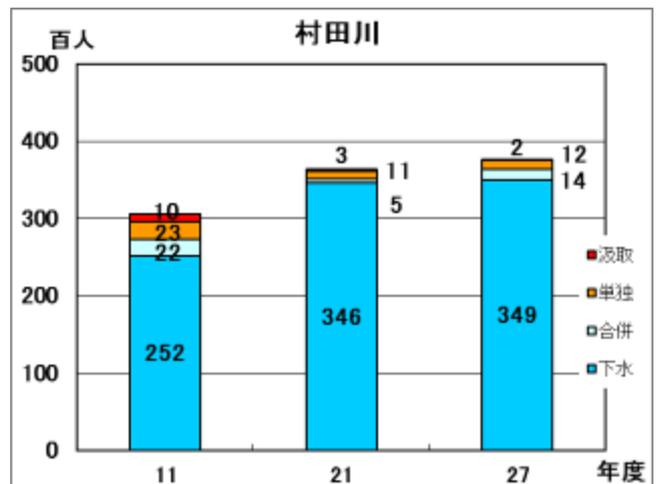
【河川の流量】

高本谷橋における平成 23 年度から平成 27 年度の河川流量は 38~50 千 m<sup>3</sup>/日で推移しています。



【生活排水処理形態別人口】

平成 27 年度における処理形態別の水域人口の割合は、下水道処理人口が約 95%となり、合併処理浄化槽人口が約 1%、単独処理浄化槽人口が約 4%、その他が 1%未満となっています。



～グラフ中の凡例の説明～

- 汲取 (汲み取り)
- 単独 (単独処理浄化槽)
- 合併 (合併処理浄化槽)
- 下水 (公共下水道)

## ●望ましい水環境の姿

### 1) 守りたい・保全したい生き物

魚類	①スズキ、マハゼ ②ビリンゴ	①守っていききたい種 (保全したい種) ②生息(生育)を目指す種 (呼び戻したい種)
底生生物	①シラタエビ、テナガエビ、モクズガニ、 スジエビモドキ、ウミゴマツボ、ヤマトオサガニ、 カワグチツボ ②クロベンケイガニ	
植物	②ヨシ、ヒメガマ、オギ	

### 2) 物理環境

流速	10~50cm/s
水深	5~20cm
河床材料	中~細礫、中~細砂
河道	瀬と淵等、変化に富んでいる。 落差工による魚類等の生息環境の分断がない。
護岸構造	環境に配慮した護岸
河川周辺	遊歩道沿いの親水・修景施設等の充実 水源域の谷津、河川沿いの樹林地、湿地等の保全・再生 原風景を活かした季節感のある周辺景観の保全・創出 河道を含めてゴミが散乱していない。

### 3) 水質・流量

BOD	2mg/L 以下
溶存酸素量	7.5mg/L 以上
大腸菌群数	1,000MPN/100mL 以下
流量	65,000m <sup>3</sup> /日以上

## ●目標達成のための取組み

### 1) いろいろな水辺の生き物の保全

- ・河川周辺の谷津の保全などによってホタル等の生物の生息地を保全・再生し、自然との共生が図れる水辺環境の創出に努めます。
- ・ふれあい自然観察会等を開催し、人と生き物とのふれあい意識の醸成・啓発を図ります。

### 2) 親しみのもてる水辺の創出

- ・水の郷公園など良好な水環境の場などの情報の発信により、市民による水辺の利用を促進します。

### 3) ゆたかな流れ(水量)の確保

- ・かん養域である森林や谷津田(越智、昭和の森、小中川)の保全を図ります。
- ・民有林を対象とした枝打ち、間伐林内整備等を行い、森林の保全・育成を図ります。

※かん養域

雨水が土壌に浸透し、地下水が補給される場所のことをいいます。

#### 4) きれいな水（水質）の保全

- ・生活排水の集合処理（公共下水道等）を進めるとともに、集合処理が適さない地域については、合併処理浄化槽の設置を促進します。
- ・家畜ふん尿の適正な処理の指導に努めます。
- ・ゴルフ場における農薬の使用状況を調査し、必要に応じて農薬使用量の削減を求めています。

#### ●主な施策

いろいろな水辺の生き物の保全	ホタルの生息地の保護
	生き物ふれあい意識の醸成・啓発 〔ふれあい自然観察会等〕（昭和の森）
	地域生態系の保全・再生
親しみのもてる水辺の創出	水環境に係る情報の発信・調査研究
ゆたかな流れ（水量）の確保	森林の育成・保全〔優良森林整備事業〕
	谷津田の保全（越智、昭和の森、小中川）
きれいな水（水質）の保全	生活排水対策の推進〔公共下水道・合併処理浄化槽〕
	畜産環境対策の推進
	ゴルフ場における農薬使用状況の把握

## (12) 浜田川 ～人々が安らげる水辺景観の創出～

### 基本方針

- ・街にうるおいを与える水辺空間

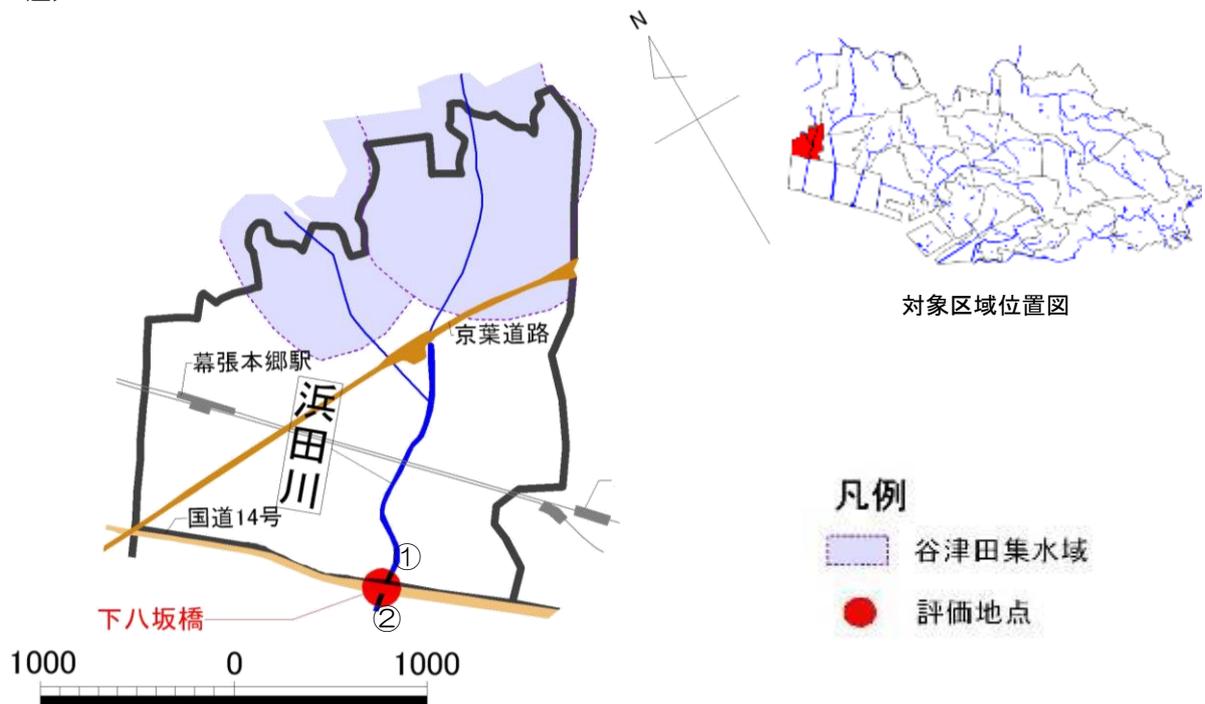
### ●水域の概要と水環境の現状

#### 1) 水域の概要

区名	町丁名
花見川区	武石町 1 丁目*、長作町*、幕張町 1～4 丁目*、幕張本郷 1～7 丁目

(備考)町丁名の後ろの\*は、2つ以上の水域にまたがっている町丁を示します。

- ・習志野市から流れる都市下水路が幕張地区を経て浜田川都市下水路となり、河口から約 2km 上流部において、二級河川（水域区分はいなげの浜～幕張の浜）に指定されています。
- ・流域には住宅地や市街地が形成されており、河川の近くまで住宅が迫っている地区もあります。下流域は河川沿いに緑地が整備されています。
- ・平成 28 年 3 月末現在、水域内の人口は約 31,700 人、世帯数は約 13,700 世帯です。（推計値）



①下八坂橋より上流を臨む



②下八坂橋より下流を臨む

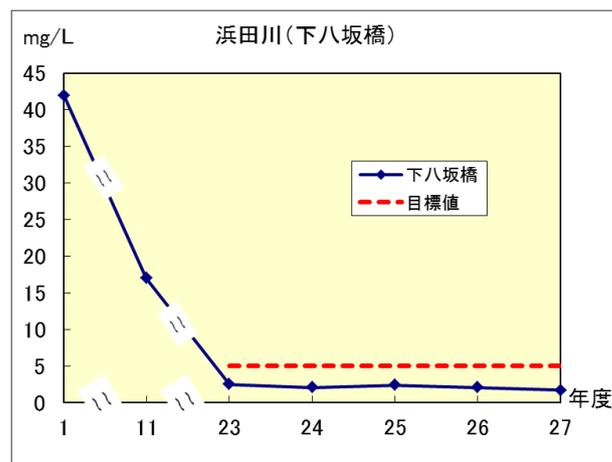


■水質等の状況

【河川の水質】

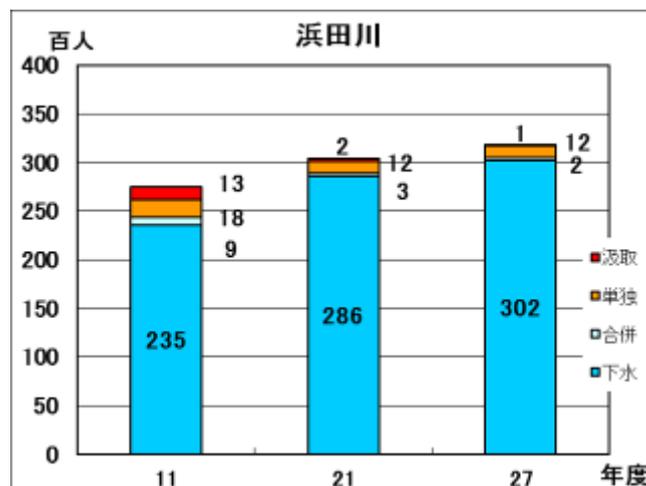
下八坂橋におけるBOD年平均值は、年々低下する傾向にあります。

近年では計画目標値の5mg/L以下を達成しています。



【生活排水処理形態別人口】

平成 27 年度における処理形態別の水域人口の割合は、下水道処理人口が約 95%となり、合併処理浄化槽人口が約 1%、単独処理浄化槽人口が約 4%、その他が 1%未満となっています。



～グラフ中の凡例の説明～

- 汲取 (汲み取り)
- 単独 (単独処理浄化槽)
- 合併 (合併処理浄化槽)
- 下水 (公共下水道)

## ●望ましい水環境の姿

### 1) 守りたい・保全したい生き物

魚類	①スナヤツメ、クロダハゼ、ドジョウ ②オイカワ、モツゴ、ヒガシシマドジョウ、ミナミメダカ、ホトケドジョウ、キンブナ、ニホンウナギ、ウグイ、ナマズ、タモロコ	①守っていきたい種 (保全したい種) ②生息(生育)を目指す種 (呼び戻したい種)
底生生物	①サトキハダヒラタカゲロウ、ヤマサナエ、コヤマトンボ、イシワタマダラカゲロウ ②テナガエビ、ハグロトンボ、コオイムシ、マシジミ	
植物	①オニグルミ、オギ ②ヤナギモ、エビモ	

### 2) 物理環境

河床材料	細礫、中～細砂
河道	現在の形状を活かす。
護岸構造	治水・美観の向上等に配慮した護岸
河川周辺	遊歩道沿いの親水・修景施設等の充実 水源域の谷津、河川沿いの樹林地、湿地等の保全・再生 原風景を活かした季節感のある周辺景観の保全・創出 河道を含めてゴミが散乱していない。

### 3) 水質・流量

BOD	5mg/L 以下
溶存酸素量	5mg/L 以上
流量	評価地点が感潮域のため設定しない。

## ●目標達成のための取組み

### 1) いろいろな水辺の生き物の保全

- ・公園緑地の整備を推進するとともに、これらを有機的に連携した、動植物の移動経路等となるエコロジカルなネットワーク(緑のネットワーク)の整備・保全を推進します。

### 2) 親しみのもてる水辺の創出

- ・プレジャーボートの無秩序な係留による景観の悪化等を回避するために、不法係留船の調査等を進めます。

### 3) ゆたかな流れ(水量)の確保

- ・農地、公園・緑地の保全に努めます。

### 4) きれいな水(水質)の保全

- ・生活排水の集合処理(公共下水道等)を進めるとともに、集合処理が適さない地域については、合併処理浄化槽の設置を促進します。
- ・環境保全型農業(環境にやさしい農業)を推進します。

● 主な施策

いろいろな水辺の生き物の保全	緑のネットワーク化
親しみのもてる水辺の創出	プレジャーボート等の不法係留対策
ゆたかな流れ（水量）の確保	農地の保全
	都市公園、緑地等の維持管理
きれいな水（水質）の保全	生活排水対策の推進〔公共下水道・合併処理浄化槽〕
	環境保全型農業の推進

## (13) 花園川（草野水路） ～河川沿いの緑化や景観美化に配慮した川づくり～

### 基本方針

- ・やすらぎを与える都市河川

### ●水域の概要と水環境の現状

#### 1) 水域の概要

区名	町丁名
花見川区	朝日ヶ丘3丁目*、検見川町5丁目*、犢橋町*、西小中台、畑町*、花園町*、宮野木台1～4丁目
稲毛区	あやめ台、稲毛2～3丁目*、稲毛町4～5丁目、稲毛東4～6丁目*、柏台、小仲台5丁目*、小仲台7～9丁目*、小中台町、園生町*、長沼町*、長沼原町*、宮野木町*
美浜区	稲毛海岸5丁目

(備考)町丁名の後ろの\*は、2つ以上の水域にまたがっている町丁を示します。

- ・花園川（草野水路）は、草野水のみちと宮野木水のみちが合流した後の国道14/357号線から下流に位置し、流末は東京湾に注いでいます。なお、現状は都市下水路であり、河川の指定を受けている区間はありませぬ。
- ・流域には住宅や公共施設等が多く存在します。また、草野水のみち沿いには遊歩道やベンチ等が整備されており、桜など四季折々の草花を楽しむことができます。
- ・平成28年3月末現在、水域内の人口は約86,300人、世帯数は約37,200世帯です。（推計値）



対象区域位置図



①草野水のみちの桜並木



②高洲橋から上流を臨む

## 2) 水環境の現状

### ■水生生物の生息・生育状況

#### 【魚 類】

平成15年度は4種、平成19年度は7種、平成26年度は7種が確認されました。このうち重要種\*は、ミナミメダカとピリンゴの2種が確認されました。平成26年度に新たに確認された種は、ミナミメダカとシマイサキとなります。平成19年度の調査と比べて、平成26年度の調査では確認種数に変化はありません。

#### 【底生生物】

平成15年度は12種、平成19年度は22種、平成26年度は17種が確認されました。このうち重要種は、ウミゴマツボとテナガエビ、シラタエビの3種が確認されました。平成19年度の調査で確認種が増加したのは、護岸の付着生物について調査を行ったためです。平成15年度、平成19年度、平成26年度のいずれも、調査時期により確認状況が大きく変化しています。本地点は底質環境がヘドロ状で硫化水素臭を呈するなど、現状では、底生生物の生息環境としては望ましいものではありません。

#### ◇底生生物による生物学的な水質判定

底生生物による生物学的な水質判定を行うと、春季では平成15年度、平成19年度、平成26年度のいずれも、「わりあいきれい」～「よごれている」で変化はみられませんでした。秋季では、平成15年度の「よごれている」～「とてもよごれている」に比べ、平成19年度は、「きれい」～「とてもよごれている」、平成26年度は、「わりあいきれい」～「とてもよごれている」と汚濁に弱い種も生息できるような環境が見られます。

河川 (地点)	年度	調査時期	きれい	わりあい きれい	よごれている	とても よごれている
花園川 〔草野水路〕 (高洲橋)	H15	春季		←	→	
		秋季			←	→
	H19	春季		←	→	
		秋季	←		→	→
	H26	春季		←	→	
		秋季			←	→

生物学的な水質判定結果模式図（花園川〔草野水路〕）

なお、一般的にきれいな水域には「カワゲラ類」、わりあいきれいな水域には「コカゲロウ類」、よごれている水域には「ミズムシ」、とてもよごれている水域には「イトミミズ」などの生物が当てはまります。

#### 【植 物】

平成21年度に59種、平成26年度に58種が確認されましたが、重要種は確認されませんでした。

#### 花園川（草野水路）の高洲橋で確認された水生生物

生物	守りたい・保全したい生き物	H15現況	H19現況	H25現況
魚類	ミナミメダカ、ピリンゴ、マハゼ、スズキ	コイ <b>スズキ</b> ボラ <b>マハゼ</b>	コイ <b>スズキ</b> ボラ <b>マハゼ</b> <b>ピリンゴ</b> アベハゼ チチブ	<b>ミナミメダカ</b> シマイサキ ボラ <b>ピリンゴ</b> <b>マハゼ</b> アベハゼ チチブ
底生生物	シラタエビ、ウミゴマツボ、テナガエビ、クロベンケイガニ、モクズガニ	マガキ アサリ アシナガゴカイ ヤマトスピオ ヒメミズ科 など全12種	マガキ アサリ アシナガゴカイ <b>ウミゴマツボ</b> <b>テナガエビ</b> など全22種	<b>シラタエビ</b> カワゴカイ属の一種 イトゴカイ属の一種 ホトギスガイ ユビナガスジエビ タカノケフサイソガニ など全17種
植物	ヨシ、ヒメガマ、オギ	H21現況		H25現況
		<b>ヒメガマ</b> ヤマグワ など全59種		<b>オギ</b> <b>ヨシ</b> など全58種

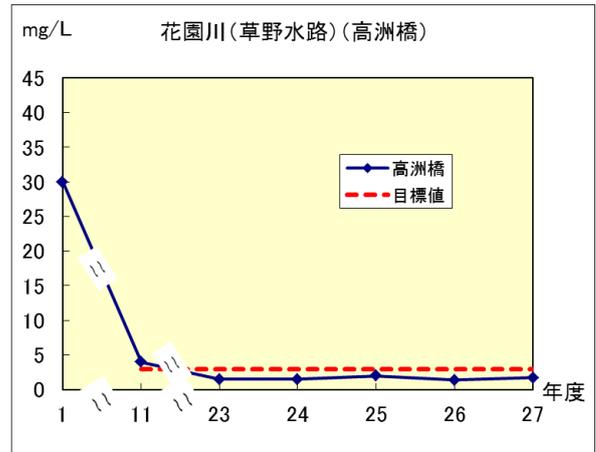
太字は指標生物を示します。

\*重要種：環境省や千葉県、千葉市のレッドリストに記載された、千葉市の生物保護上重要な野生生物のことをいいます。

■水質等の状況

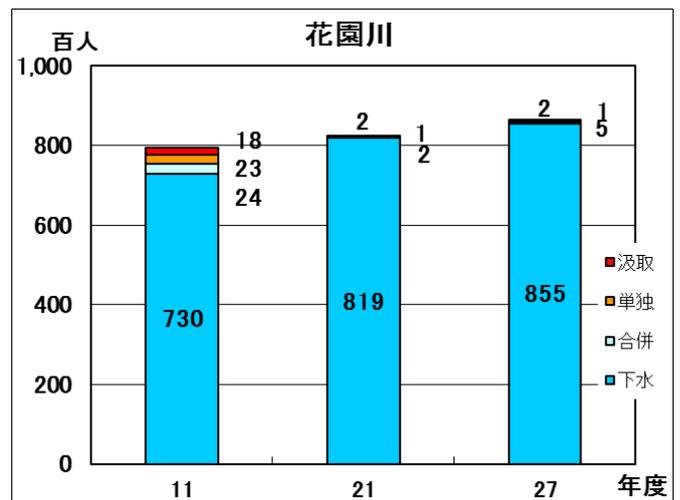
【河川の水質】

高洲橋における BOD 年平均値は、年々低下する傾向を示しています。近年では計画目標値の 3mg/L 以下を達成しています。



【生活排水処理形態別人口】

平成 27 年度における処理形態別の水域人口の割合は、下水道処理人口が約 99%となっており、大部分が下水道で処理されています。



～グラフ中の凡例の説明～

- 汲取 (汲み取り)
- 単独 (単独処理浄化槽)
- 合併 (合併処理浄化槽)
- 下水 (公共下水道)

## ●望ましい水環境の姿

### 1) 守りたい・保全したい生き物

魚類	①モツゴ、ニホンウナギ、ビリンゴ ②マハゼ、スズキ、ヌマチチブ	①守っていきたい種 (保全したい種) ②生息(生育)を目指す種 (呼び戻したい種)
底生生物	①マルタニシ、クロベンケイガニ、モクズガニ ②テナガエビ	
植物	②ヨシ、ヒメガマ	

### 2) 物理環境

河床材料	細礫、中～細砂
河道	現在の形状を活かす。
護岸構造	治水・美観の向上等に配慮した護岸
河川周辺	遊歩道沿いの親水・修景施設等の充実 水源域の谷津、河川沿いの樹林地、湿地等の保全・再生 原風景を活かした季節感のある周辺景観の保全・創出 河道を含めてゴミが散乱していない。

### 3) 水質・流量

BOD	3mg/L 以下
溶存酸素量	5mg/L 以上
流量	評価地点が感潮域のため設定しない。

## ●目標達成のための取組み

### 1) いろいろな水辺の生き物の保全

- ・公園緑地の整備を推進するとともに、これらを有機的に連携した、動植物の移動経路等となるエコロジカルなネットワーク(緑のネットワーク)の整備・保全を推進します。

### 2) ゆたかな流れ(水量)の確保

- ・市民緑地(園生)において市民との連携による維持管理を実施し、雨水浸透域の保全に努めます。
- ・開発行為等に関する緑化指導、保存樹木・樹木の指定等により、緑地等の保全を図ります。

### 3) きれいな水(水質)の保全

- ・生活排水の集合処理(公共下水道等)を進めるとともに、集合処理が適さない地域については、合併処理浄化槽の設置を促進します。
- ・工場・事業場からの排出負荷の削減を推進します。

● 主な施策

いろいろな水辺の生き物の保全	緑のネットワーク化
ゆたかな流れ（水量）の確保	保存樹木・樹林の指定・保全
	市民緑地の整備・市民協働による維持管理 （園生の森公園）
	開発行為等に関する緑化指導
	都市公園、緑地等の維持管理
きれいな水（水質）の保全	生活排水対策の推進〔公共下水道・合併処理浄化槽〕
	工場・事業場排水等の適正処理の指導





③浜野橋より上流を臨む



④浜野橋より下流を臨む

## 2) 水環境の現状

### ■水生生物の生息・生育状況

#### 【魚類】

平成15年度は3種、平成19年度は6種、平成25年度は4種が確認されましたが、重要種※は確認されませんでした。平成19年度までの調査及び平成25年度の調査を比較すると、新たに、ウロハゼ1種が確認されました。

#### 【底生生物】

平成15年度は24種、平成19年度は37種、平成25年度は24種が確認されました。重要種はクロベンケイガニが確認されました。平成15年度の調査及び平成19年度の調査を比較すると、確認種数が増加していることから、底生生物の生息環境は改善傾向にあると言えます。

#### ◇底生生物による生物学的水質判定

底生生物による生物学的水質判定を行うと、平成15年度は、春季、秋季ともに、「きれい」～「とてもよごれている」となります。平成19年度は、春季は「きれい」～「よごれている」であり、秋季は「きれい」～「とてもよごれている」でした。平成25年度は、春季は「きれい」～「とてもよごれている」であり、秋季は「きれい」～「わりあいきれい」でした。平成19年度と平成25年度において、あまり変化はみられませんでした。

河川 (地点)	年度	調査時期	きれい	わりあい きれい	よごれている	とても よごれている
浜野川 (浜野橋)	H15	春季	←			→
		秋季	←			→
	H19	春季	←		→	
		秋季	←			→
	H25	春季	←			→
		秋季	←		→	

生物学的水質判定結果模式図（浜野橋）

なお、一般的にきれいな水域には「カワゲラ類」、わりあいきれいな水域には「コカゲロウ類」、よごれている水域には「ミズムシ」、とてもよごれている水域には「イトミミズ」などの生物が当てはまります。

※重要種：環境省や千葉県、千葉市のレッドリストに記載された、千葉市の生物保護上重要な野生生物のことをいいます。

【植 物】

平成21年度に97種、平成25年度に30種が確認されました。重要種※では、タコノアシ、エビモ、ヤナギモの3種が確認されました。

浜野川の浜野橋で確認された水生生物

生物	守りたい・保全したい生き物	H15現況	H19現況	H25現況
魚類	スズキ、マハゼ、ビリンゴ	<b>スズキ</b> ボラ <b>マハゼ</b>	スズキ <b>スズキ</b> ボラ <b>マハゼ</b> アベハゼ ヒナハゼ モキブ	<b>スズキ</b> ウロハゼ ヒナハゼ <b>マハゼ</b>
底生生物	ウミゴマツボ、クロベンケイガニ、テナガエビ、モクスガニ	ホトギスガイ マガキ アサリ ムラサキイガイ ゴカイ など全24種	ホトギスガイ マガキ アサリ ムラサキイガイ <b>クロベンケイガニ</b> など全37種	Pseudopolydora属の一種 ドロソコエビ属の一種 ミズミズ科 マガキ エゾカサネカンザシ など全24種
植物	タコノアシ、エビモ、ヤナギモ、ヨシ、マコモ、ヒメガマ	H21現況		H25現況
		<b>エビモ</b> <b>ヤナギモ</b> <b>ヒメガマ</b> など全97種		<b>ヨシ</b> <b>マコモ</b> <b>ヒメガマ</b> など全30種

太字は指標生物を示します。

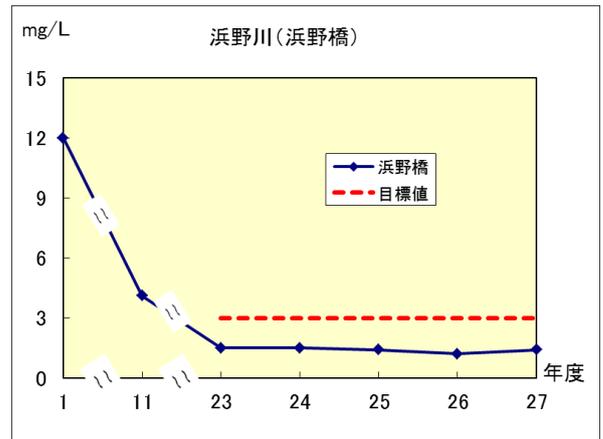
※重要種

環境省や千葉県、千葉市のレッドリストに記載された、千葉市の生物保護上重要な野生生物のことをいいます。

■水質等の状況

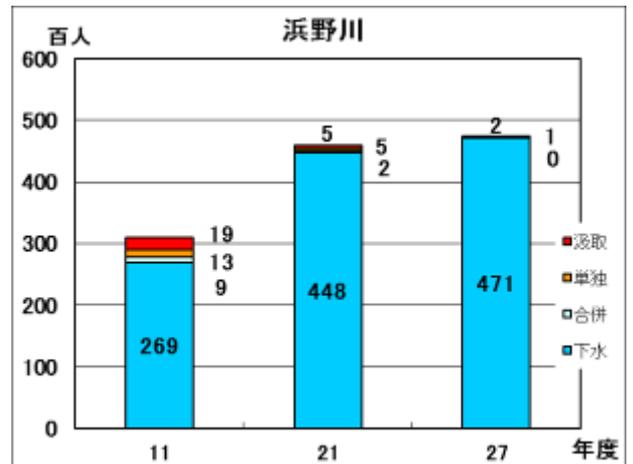
【河川の水質】

浜野橋における BOD 年平均値は、年々低下する傾向を示しています。近年では計画目標値の 3mg/L 以下を達成しています。



【生活排水処理形態別人口】

平成 27 年度における処理形態別の水域人口の割合は、下水道処理人口が約 99%となっており、大部分が下水道で処理されています。



～グラフ中の凡例の説明～

- 汲取 (汲み取り)
- 単独 (単独処理浄化槽)
- 合併 (合併処理浄化槽)
- 下水 (公共下水道)

## ●望ましい水環境の姿

### 1) 守りたい・保全したい生き物

魚類	①スズキ、マハゼ ②ビリンゴ	①守っていききたい種 (保全したい種) ②生息(生育)を目指す種 (呼び戻したい種)
底生生物	①ウミゴマツボ ②クロベンケイガニ、テナガエビ、モクスガニ	
植物	②タコノアシ、エビモ、ヤナギモ、ヨシ、マコモ、ヒメガマ	

### 2) 物理環境

河床材料	細礫、中～細砂
河道	現在の形状を活かす。
護岸構造	治水・美観の向上等に配慮した護岸
河川周辺	遊歩道沿いの親水・修景施設等の充実 水源域の谷津、河川沿いの樹林地、湿地等の保全・再生 原風景を活かした季節感のある周辺景観の保全・創出 河道を含めてゴミが散乱していない。

### 3) 水質・流量

BOD	3mg/L 以下
溶存酸素量	5mg/L 以上
流量	評価地点が感潮域のため設定しない。

## ●目標達成のための取組み

### 1) いろいろな水辺の生き物の保全

- ・ 泉谷公園から大百池までの約 2km の区間(「おゆみの道」)については、市民と市が連携して豊かな生物の生息・生育場所の確保に向けた維持管理を行うとともに、優れた自然との連続性に配慮して、動植物の移動経路等となるエコロジカルなネットワーク(緑のネットワーク)の保全を推進します。

### 2) 親しみのもてる水辺の創出

- ・ 親水・景観に配慮し、市民にゆとりと潤いのある憩いの場として整備した水環境施設(杉山地区)の適切な維持管理を実施します。
- ・ プレジャーボートの無秩序な係留による景観の悪化等を回避するために、不法係留船の調査等を進めます。
- ・ 「おゆみの道」は、古からの水の歴史を持っている泉谷を自然豊かな憩いの場に保全整備した場所であり、自然観察や環境学習の場として、今後も市民と市が連携して保全活動を進めます。

※かん養域

雨水が土壌に浸透し、地下水が補給される場所のことをいいます。

### 3) ゆたかな流れ（水量）の確保

- ・ かん養域である森林や谷津田（大百池）の保全を図ります。
- ・ 市民緑地（おゆみ野の森）において、市民との連携による維持管理を実施します。
- ・ 「おゆみの道」のせせらぎの水源である泉谷公園において、市民との連携による維持管理を実施します。

### 4) きれいな水（水質）の保全

- ・ 生活排水の集合処理（公共下水道等）を進めるとともに、集合処理が適さない地域については、合併処理浄化槽の設置を促進します。
- ・ 工場・事業場からの排出負荷の削減を推進します。

#### ●主な施策

いろいろな水辺の生き物の保全	緑のネットワーク化
親しみのもてる水辺の創出	水環境施設整備維持管理事業（杉山地区）
	プレジャーボート等の不法係留対策
ゆたかな流れ（水量）の確保	市民緑地の整備・維持管理（おゆみ野の森）
	谷津田の保全（大百池）
	都市公園、緑地等の維持管理 （大百池公園、泉谷公園、「おゆみの道」等）
きれいな水（水質）の保全	生活排水対策の推進〔公共下水道・合併処理浄化槽〕
	工場・事業場排水等の適正処理の指導

## (15) 生実川 ～郷土の生き物呼び戻す川づくり～

### 基本方針

- ・街を彩る水辺空間

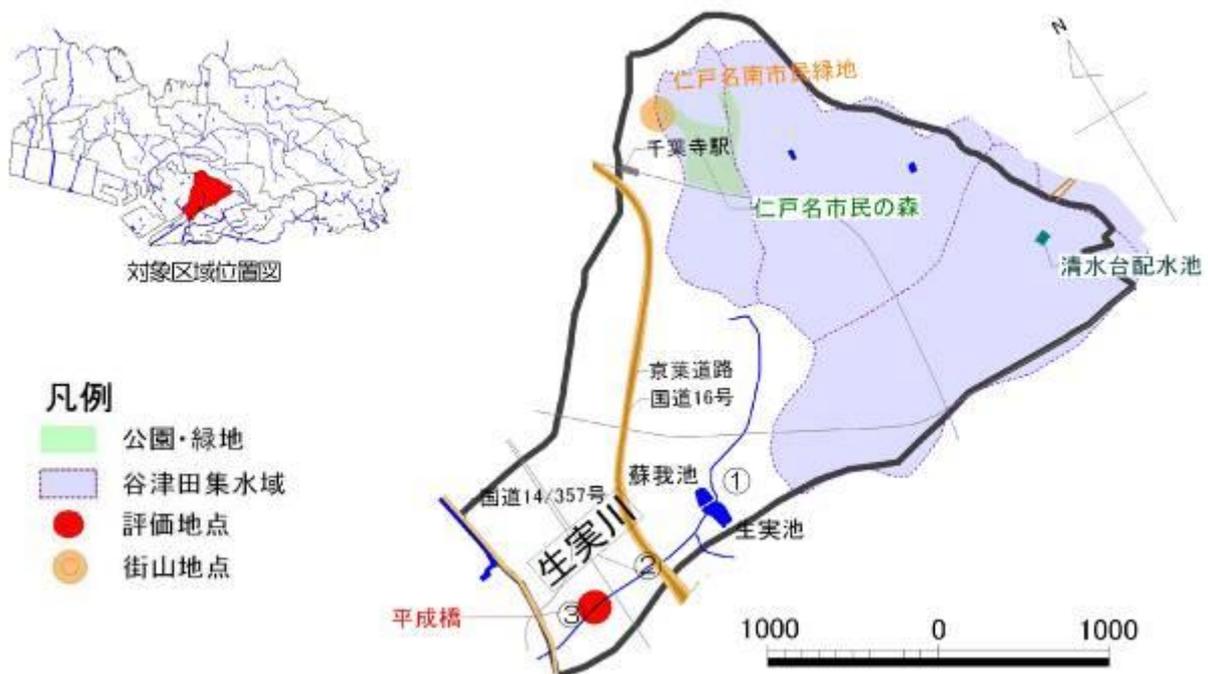
### ●水域の概要と水環境の現状

#### 1) 水域の概要

区名	町丁名
中央区	赤井町、今井町、鶉の森町、大森町、生実町*、塩田町*、白旗2丁目*、蘇我2～5丁目、大巖寺町、仁戸名町*、花輪町、松ヶ丘町*
緑区	鎌取町*

(備考)町丁名の後ろの\*は、2つ以上の水域にまたがっている町丁を示します。

- ・生実川は花輪町の台地に源を発し、赤井町、大森町の台地から水を集め、蘇我池と生実池に分流しています。
- ・平成28年3月末現在、水域内の人口は約29,400人、世帯数は約12,700世帯です。(推計値)



①生実池



②生実川の河川敷



③平成橋より下流を臨む

## 2) 水環境の現状

### ■水生生物の生息・生育状況

#### 【魚類】

平成15年度は4種、平成19年度は6種、平成25年度は6種が確認されました。このうち重要種※は、ピリンゴとミナミメダカの2種が確認されました。平成19年度と平成25年度の調査を比較すると、平成25年度に新たに確認された種は、ミナミメダカ1種となります。魚類の確認状況に大きな変化は見られません。また、ボラやハゼ類が多数生息していることから、これらの魚類に適した生息環境であると言えます。

平成15年度は4種、平成19年度は6種、平成25年度は6種が確認されました。このうち重要種※は、ピリンゴとミナミメダカの2種が確認されました。平成19年度と平成25年度の調査を比較すると、平成25年度に新たに確認された種は、ミナミメダカ1種となります。魚類の確認状況に大きな変化は見られません。また、ボラやハゼ類が多数生息していることから、これらの魚類に適した生息環境であると言えます。

#### 【底生生物】

平成15年度は10種、平成19年度は19種、平成25年度は15種が確認されました。このうち重要種※は、スジエビ、シラタエビ、ホソウミニナ、クロベンケイガイの4種が確認されました。確認種数及び組成に大きな変化は見られなかったことから、底生生物の生息環境に大きな変化はないと言えます。

#### ◇底生生物による生物学的水質判定

底生生物による生物学的水質判定を行うと、平成15年度の春季は「よごれている」、秋季は「よごれている」～「とてもよごれている」となりました。平成19年度の春季は「きれい」～「よごれている」と、水質汚濁階級がきれいな方へと変化しましたが、平成25年度の秋季は「よごれている」～「とてもよごれている」となりました。

河川 (地点)	年度	調査時期	きれい	わりあい きれい	よごれている	とても よごれている
生実川 (平成橋)	H15	春季			←→	
		秋季			←→	←→
	H19	春季	←→			
		秋季		←→		←→
	H25	春季		←→		
		秋季			←→	←→

生物学的水質判定結果模式図（平成橋）

なお、一般的にきれいな水域には「カワゲラ類」、わりあいきれいな水域には「コカゲロウ類」、よごれている水域には「ミズムシ」、とてもよごれている水域には「イトミミズ」などの生物が当てはまります。

#### 【植 物】

平成21年度に114種、平成25年度に123種が確認され、重要種では、オニグルミ、タコノアシ、ミクリの3種が確認されました。

※重要種：環境省や千葉県、千葉市のレッドリストに記載された、千葉市の生物保護上重要な野生生物のことをいいます。

生実川の平成橋で確認された水生生物

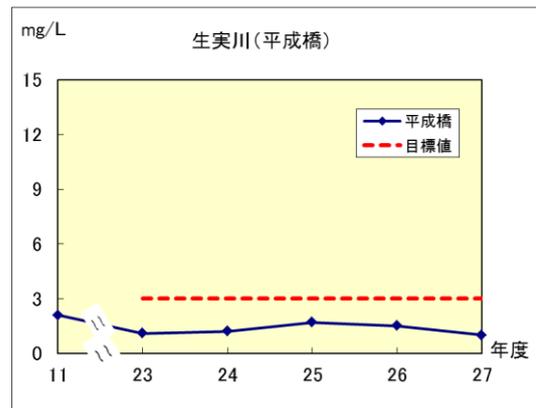
生物	守りたい・保全したい生き物	H15現況	H19現況	H25現況
魚類	ビリンゴ、ミナミメダカ、マハゼ、スズキ	ボラ <b>ビリンゴ</b> <b>マハゼ</b> チチブ	ボラ <b>ビリンゴ</b> <b>マハゼ</b> チチブ アベハゼ コイ	アベハゼ チチブ <b>ビリンゴ</b> <b>マハゼ</b> ボラ <b>ミナミメダカ</b>
底生生物	シラタエビ、クロベンケイガニ、ホソウミニナ、スジエビ、テナガエビ、モクズガニ	テリハギガイ科の一種 ゴカイ ユビナガスジエビ チチュウカイミドリガニ <b>スジエビ</b> など全10種	<b>ホソウミニナ</b> イガイダマシ マガキ <b>シラタエビ</b> <b>スジエビ</b> など全19種	イトゴカイ属の一種 ドロソコエビ属の一種 ミズミズ科の一種 <b>シラタエビ</b> <b>クロベンケイガニ</b> など全15種
植物	ミクリ、ヨシ、オギ、マコモ、ヒメガマ、オニグルミ、タコノアシ、クサヨシ	H21現況		H25現況
		<b>タコノアシ</b> <b>ミクリ</b> <b>ヒメガマ</b> など全114種		<b>ヨシ</b> <b>マコモ</b> <b>ミクリ</b> <b>ヒメガマ</b> など全123種

太字は指標生物を示します。

■水質等の状況

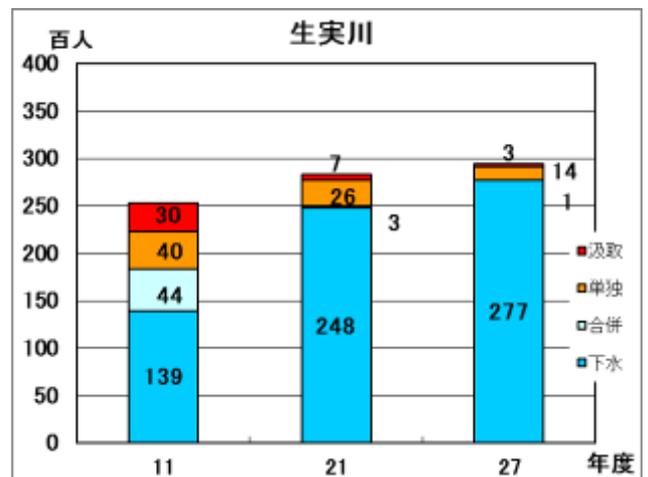
【河川の水質】

平成橋におけるBOD年平均值は、ほぼ横ばいの傾向を示しています。全期間を通して、計画目標値の3mg/L以下を達成しています。



【生活排水処理形態別人口】

平成27年度における処理形態別の水域人口の割合は、下水道処理人口が約94%となり、合併処理浄化槽人口が1%未満、単独処理浄化槽人口が約5%、その他が約1%となっています。



～グラフ中の凡例の説明～

- 汲取 (汲み取り)
- 単独 (単独処理浄化槽)
- 合併 (合併処理浄化槽)
- 下水 (公共下水道)

## ●望ましい水環境の姿

### 1) 守りたい・保全したい生き物

魚類	①ピリンゴ、ミナミメダカ、マハゼ ②スズキ	①守っていききたい種 (保全したい種) ②生息(生育)を目指す種 (呼び戻したい種)
底生生物	①シラタエビ、クロベンケイガニ ②ホソウミニナ、スジエビ、テナガエビ、 モクズガニ	
植物	①ミクリ ②ヨシ、オギ、マコモ、ヒメガマ、オニグルミ、 タコノアシ、クサヨシ	

### 2) 物理環境

河床材料	中～細礫、中～細砂
河道	瀬と淵等、変化に富んでいる。 落差工による魚類等の生息環境の分断がない。
護岸構造	環境に配慮した護岸
河川周辺	遊歩道沿いの親水・修景施設等の充実 水源域の谷津、河川沿いの樹林地、湿地等の保全・再生 原風景を活かした季節感のある周辺景観の保全・創出 河道を含めてゴミが散乱していない。

### 3) 水質・流量

BOD	3mg/L 以下
大腸菌群数	1,000MPN/100mL 以下
溶存酸素量	5mg/L 以上
流量	評価地点が感潮域のため設定しない。

## ●目標達成のための取組み

### 1) いろいろな水辺の生き物の保全

- ・生実川のほぼ中間地点に位置する生実池は緑が多く、人々にとっての憩いの場であるとともに、鳥類等の貴重な生息地となっています。生実池の周辺地域も含め、人と生き物が共生しうる空間となるように整備するとともに、動植物の移動経路等となるエコロジカルなネットワーク(緑のネットワーク)の整備・保全を推進します。

### 2) 親しみのもてる水辺の創出

- ・生実川上流域は歴史的な資源に恵まれ、千葉市の散歩道「大巖寺・生実の城跡コース」となっていることから、地域特性に配慮し、のどかで趣のある河川空間の形成に努めます。
- ・河川周辺の除草等により景観の改善に努めます。

### 3) ゆたかな流れ(水量)の確保

- ・かん養域である森林や谷津田(赤井)の保全を図ります。
- ・民有林を対象とした枝打ちや、間伐林内の整備等を行い、森林の保全・育成を図ります。
- ・市民緑地(仁戸名南)及び市民の森(仁戸名)において、市民との連携による維持管理を実施します。

※かん養域

雨水が土壌に浸透し、地下水が補給される場所のことをいいます。

#### 4) きれいな水（水質）の保全

- 生活排水の集合処理（公共下水道等）を進めるとともに、集合処理が適さない地域については、合併処理浄化槽の設置を促進します。

#### ●主な施策

いろいろな水辺の生き物の保全	緑のネットワーク化
親しみのもてる水辺の創出	川辺の市民利用の推進
	河川等環境の保全（生実川）
ゆたかな流れ（水量）の確保	森林の育成・保全〔優良森林整備事業〕
	市民緑地の整備・維持管理（仁戸名南）
	市民の森の整備・市民協働による維持管理（仁戸名）
	谷津田の保全（赤井）
きれいな水（水質）の保全	生活排水対策の推進〔公共下水道・合併処理浄化槽〕